平成 23 年度　流通情報工学科　卒業論文要旨

気仙沼市における水産加工業の復興計画に関する研究
～ふかひれ加工業について～

0823012　楠見 真代　（指導教員：黒川久幸 教授）

1. はじめに

東日本大震災によって岩手・宮城・福島の3県を中心に甚大な被害を受けた。

今回はその中でも、海の近辺にあって被害の大きかった、水産業の復興計画について検討する。

2. 日本の水産業の現状（震災前）

現在の日本の水産加工業は高度経済成長期に発展し、技術開発により量産加工が可能となった。

宮城県の水産加工業は豊富な水揚げに支えられ、水産加工物の総生産量 404,231 トン（2007 年）で、北海道に次ぐ全国2位となっている。

特に、宮城県気仙沼市ではふかひれ加工品が有名で、商品は中華料理の高級食材として世界中で食べられている。

3. 東北 3 県（岩手・宮城・福島）の被害状況

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とその影響で起きた大津波によって、東北3県の水産業は壊滅的な被害を受けた。

その被害総額は、1 兆 1,305 億円にも達しており、英知を集めた復興計画の作成が切望されている。

4. 復興計画

岩手・宮城・福島の各県並びに宮城県気仙沼市において復興計画が作成されている。しかし、その中では水産加工場の立地面積については十分な検討がなされていない。

そこで、水産加工場について考慮した水産加工業の復興計画の考え方を提案する。

5. ふかひれ加工業についての復興計画

ふかひれ加工は、図 1 に示すような工程で行われる。そこで、各工程で費用な機械設備を設置するために必要な加工場の広さについて試算し、立地場所を選定する際の参考とする。

また、漁港についても漁獲量との関係から推計し、必要な荷さばき広さを求める。

図 1　ふかひれ加工の工程

さめのひれを切り取る
↓
余分な身を取り除く
↓
皮や小骨を取り除く
↓
乾燥させる
↓
包装（真空パック）する
↓
殺菌加工・異物チェック

ふかひれの水産加工場の敷地面積は、1,815 m^2 必要であり、漁港施設は、42,329 m^2 必要である。

6. おわりに

宮城県気仙沼市において主要な特産品であるふかひれを対象として復興計画を検討した。

今後は関係するマグロや他の魚種も含めて水産加工団地として必要な敷地面積や電力等の検討を行っていく予定である。

キーワード：東日本大震災・水産業・復興計画